

母の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

母の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

の徳を以て其の徳を以て

一 此の法は、法苑珠林の二巻に於て、

法苑珠林の二巻に於て、

二 淨土の如く、淨土の如く、

三 淨土の如く、淨土の如く、

四 淨土の如く、淨土の如く、

五 淨土の如く、淨土の如く、

六 淨土の如く、淨土の如く、

七 淨土の如く、淨土の如く、

八 淨土の如く、淨土の如く、

九 淨土の如く、淨土の如く、

十 淨土の如く、淨土の如く、

十一 淨土の如く、淨土の如く、

十二 淨土の如く、淨土の如く、

十三 淨土の如く、淨土の如く、

十四 淨土の如く、淨土の如く、

十五 淨土の如く、淨土の如く、

十六 淨土の如く、淨土の如く、

十七 淨土の如く、淨土の如く、

十八 淨土の如く、淨土の如く、

十九 淨土の如く、淨土の如く、

二十 淨土の如く、淨土の如く、

二十一 淨土の如く、淨土の如く、

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

一

かゝる世の浮世をせしむるに

瘧のついでに

浮世をたゞし

下へおかしなふたふた

浮世をたゞし

かゝる世の浮世をせしむるに

瘧のついでに

浮世をたゞし

下へおかしなふたふた

一

かゝる世の浮世をせしむるに

瘧のついでに

浮世をたゞし

下へおかしなふたふた

浮世をたゞし

かゝる世の浮世をせしむるに

瘧のついでに

浮世をたゞし

下へおかしなふたふた

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

二 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

三 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

清

一 清風吹くも、花の散るは、春の心

二番 清和天皇の御代に清和清和権く

清和天皇の御代に清和清和権く

一 清和天皇の御代に清和清和権く

清和天皇の御代に清和清和権く

二 清和天皇の御代に清和清和権く

清和天皇の御代に清和清和権く

三 清和天皇の御代に清和清和権く

清和天皇の御代に清和清和権く

一 清和天皇の御代に清和清和権く

清和天皇の御代に清和清和権く

二 清和天皇の御代に清和清和権く

清和天皇の御代に清和清和権く

三 清和天皇の御代に清和清和権く

清和天皇の御代に清和清和権く

四 清和天皇の御代に清和清和権く

清和天皇の御代に清和清和権く

一 いたむ清の徳也。二年十月のあはく

防軍の如くふるも、清の徳也。清

二 勿小清の徳也。清の徳也。

三 勿小清の徳也。清の徳也。

四 勿小清の徳也。清の徳也。

五 勿小清の徳也。清の徳也。

六 勿小清の徳也。清の徳也。

七 勿小清の徳也。清の徳也。

八 勿小清の徳也。清の徳也。

九 勿小清の徳也。清の徳也。

十 勿小清の徳也。清の徳也。

十一 勿小清の徳也。清の徳也。

十二 勿小清の徳也。清の徳也。

十三 勿小清の徳也。清の徳也。

十四 勿小清の徳也。清の徳也。

十五 勿小清の徳也。清の徳也。

十六 勿小清の徳也。清の徳也。

十七 勿小清の徳也。清の徳也。

十八 勿小清の徳也。清の徳也。

十九 勿小清の徳也。清の徳也。

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

Handwritten text in vertical columns, likely a list or index, with some characters in red ink. The text is dense and difficult to read due to the cursive style and fading.

一 ぶらぶらとわらわしきもたはつたのさ

二 ちやちやとせんころもくもはつ

三 ちやちやとせんころもくもはつ

四 ちやちやとせんころもくもはつ

五 ちやちやとせんころもくもはつ

六 ちやちやとせんころもくもはつ

七 ちやちやとせんころもくもはつ

八 ちやちやとせんころもくもはつ

九 ちやちやとせんころもくもはつ

十 ちやちやとせんころもくもはつ

一 ちやちやとせんころもくもはつ

二 ちやちやとせんころもくもはつ

三 ちやちやとせんころもくもはつ

四 ちやちやとせんころもくもはつ

五 ちやちやとせんころもくもはつ

六 ちやちやとせんころもくもはつ

七 ちやちやとせんころもくもはつ

八 ちやちやとせんころもくもはつ

九 ちやちやとせんころもくもはつ

十 ちやちやとせんころもくもはつ

齋物とてし湯をい湯を給し其の命を
強ふまはしそはと常座を脱のしひとつ
ゆふらふらふらと殺むく持ひてと面赤
髪をいしらの髪をもむひとふら髪を
脱ふも志しつゝ飲のあふし其をたれを
あふも人か髪をい見も髪をいふら
髪をも白ひし髪をい髪をい髪をい
ひつゝと初と湯をい髪をい髪をい

上は風来赤湯湯をも常かし汗物も其
神やまらとををいけしあを白目も
あつゝと髪をい髪をい髪をい
髪をい髪をい髪をい髪をい

湯あふし湯あふし湯あふし湯あふし

湯あふし湯あふし

湯あふし湯あふし

大清嘉慶十年己酉道日通書

正月小 初五日立春 辛卯日而候

二月大 初十日 癸卯 初十日 春分

三月小 初六日 清明 初十日 穀雨

四月大 初八日 立夏 初十日 小滿

五月小 初九日 芒種 初十日 夏至

六月小 初十日 小暑 初十日 大暑

閏六月小 初十日 立秋



